



安全データシート

m-Enterococcus Agar

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

作成日: 2025/10/02 改訂日: 2026/06/03 バージョン: 2.0

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : m-Enterococcus Agar
製品タイプ : Food Safety -- [Food Safety]
製品コード : NCM0163
Part Number(s) : NCM0163|400000853|700003444

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : 分析用薬剤、化学研究及び開発

会社情報

製造業者

Neogen Corporation
48912
United States of America Michigan Lansing 620 Leshler Place
T 800.234.5333
sds@neogen.com - <https://www.neogen.com/>

輸入業者

ネオジェンジャパン株式会社
220-0012
神奈川県 横浜市西区 みなとみらい 3-3-3 横浜コネクトスクエア
12階
T 045-211-4615

緊急連絡電話番号

緊急連絡電話番号 : 24 hours:
Medical: 1-800-498-5743 (U.S. and Canada) or 1-651-523-0318 (international)
Spill/CHEMTREC: 1-800-424-9300 (U.S. and Canada) or 1-703-527-3887 (international)

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	分類できない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	分類できない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高圧ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分に該当しない
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自然発火性固体	分類できない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	区分に該当しない
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	分類できない
	金属腐食性化学品	分類できない
	鈍性化爆発物	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	分類できない
	急性毒性 (経皮)	分類できない
	急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入: 蒸気)	区分に該当しない

安全データシート

m-Enterococcus Agar

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

急性毒性 (吸入：粉じん、ミスト)	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	分類できない
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない
誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性 水生環境有害性 短期 (急性)	区分 3
水生環境有害性 長期 (慢性)	区分 3
オゾン層への有害性	分類できない

ラベル要素

危険有害性 (GHS JP) : 長期継続的影響によって水生生物に有害 (H412)

注意書き (GHS JP)

安全対策 : 環境への放出を避けること。 (P273)

廃棄 : 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。
(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

名前	濃度 (%)	官報公示整理番号		CAS 番号
		化審法番号	安衛法番号	
Sodium azide	≥ 0.5 - < 1	(1)-482	既存化学物質	26628-22-8

4. 応急措置

応急措置

応急措置 一般	: 気分が悪い場合は医師の診察を受ける。
吸入した場合	: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合	: 皮膚は多量の水で洗浄する。
眼に入った場合	: 予防措置として眼を水ですすぐ。
飲み込んだ場合	: 気分が悪いときは医師に連絡すること。
応急措置をする者の保護	: 応急措置を行う者は、自身の保護に注意を払い、推奨される個人用保護具を使用すること (第 8 項を参照)。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

症状/損傷 吸入した場合	: 通常の条件下では特に無し。 本製品から発生しうる粉じんは、吸い込み過ぎると呼吸器の炎症を引き起こす場合がある。
--------------	--

安全データシート

m-Enterococcus Agar

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

症状/損傷 皮膚に付着した場合	: 通常の条件下では特に無し。 粉じんは皮膚のひだまたは密着した衣服に接触することで刺激を起こすことがある。
症状/損傷 眼に入った場合	: 通常の条件下では特に無し。 本製品の粉じんは、目の炎症を引き起こす場合がある。
症状/損傷 飲み込んだ場合	: 通常の条件下では特に無し。
医師に対する特別な注意事項	
その他の医学的アドバイスまたは治療	: 対症的に治療すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	: 水噴霧、乾燥粉末消火剤、泡消火剤
使ってはならない消火剤	: 強い水流は使用しない。
火災危険性	: 火災の危険は一切ない。
爆発の危険	: 直接に爆発する危険は全くない。
火災時の危険有害性分解生成物	: 有毒な煙を放出する可能性がある。
消火方法	: 安全な距離と保護された場所から消火活動を行う。 呼吸器の保護を含め、適切な保護装置を使用せず、火災現場に入らない。
消火時の保護具	: 適切な保護具を着用して作業する。 自給式呼吸器。 完全防護服。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置	: 本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。 物的損傷を防止するためにも流出したものを回収すること。
-------	--

非緊急対応者

保護具	: 推奨される個人用保護具を着用する。
応急処置	: 漏出エリアを換気する。

緊急対応者

保護具	: 適切な保護具を着用して作業する。 詳細については、第8項の「ばく露防止及び保護措置」を参照。
応急処置	: 不要な職員を退避させる。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項	: 環境への放出を避けること。
------------	-----------------

封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法	: 漏出物を回収すること。
浄化方法	: 製品は機械的に回収する。
その他の情報	: 物質または固形残留物は公認施設で廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全データシート

m-Enterococcus Agar

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

技術的対策	: データなし
安全取扱注意事項	: 作業所の十分な換気を確保する。 個人用保護具を着用する。
接触回避	: データなし
衛生対策	: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 製品取扱い後には必ず手を洗う。
保管	
安全な保管条件	: 涼しいところに置き、日光から遮断すること。
安全な容器包装材料	: データなし
技術的対策	: 涼しくて、よく換気された場所で、熱から離して保存する。
容器包装材料	: 製品は必ず元の容器と同じ素材の容器に保管する。
保管温度	: 2 - 30 °C

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策	: 作業所の十分な換気を確保する。
保護具	
個人用保護具	: 推奨される個人用保護具を着用する。
呼吸用保護具	: 換気が不十分である場合、適切な呼吸器を着用する。
手の保護具	: 保護用手袋
眼の保護具	: 安全メガネ
皮膚及び身体の保護具	: 適切な保護衣を着用する。
環境へのばく露の制限と監視	: 環境への放出を避けること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 固体
外観	: 粉末
色	: ベージュ色
臭い	: 特異臭
pH	: 7 - 7.4
融点	: データなし
凝固点	: データなし
沸点	: データなし
引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
可燃性	: データなし
蒸気圧	: データなし
相対密度	: データなし
密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: 水に可溶。
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	: データなし
爆発限界 (Vol-%)	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

安全データシート

m-Enterococcus Agar

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の使用、保管、運送の状況下では、当製品は反応しません。
化学的安定性	: 通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。
避けるべき条件	: 推奨の保存条件及び取扱条件の下では何もありません（第7項参照）。
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 通常の使用条件及び保管条件下において、有害な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 分類できない
急性毒性 (経皮)	: 分類できない
急性毒性 (吸入)	: 区分に該当しない(分類対象外) (気体) 区分に該当しない(分類対象外) (蒸気) 分類できない (粉じん、ミスト)

m-Enterococcus Agar	
未知の急性毒性 (GHS JP)	混合物の 69.21%は未知の急性毒性(経口)の成分で構成されている 混合物の 97.85%は未知の急性毒性(経皮)の成分で構成されている 混合物の 97.85%は未知の急性毒性(吸入 (粉じん/ミスト))の成分で構成されている
Sodium azide (26628-22-8)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 = 45 mg/kg (DFGOT vol.20 (2003)) から区分 2 とした。
急性毒性 (経皮)	ウサギの LD50 = 20 mg/kg (ACGIH (2001)) から区分 1 とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS 定義における固体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	データなし。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足で分類できない。なお、ラット LC50 = 37mg/m3 (RTECS (2008)) が報告されているが、ばく露時間が不明である。
LD50 経口 ラット	27 mg/kg BW (Rat, Experimental value, Oral)
LD50 経口	45 mg/kg
LD50 経皮 ウサギ	19 – 48 mg/kg BW (Rabbit, Inconclusive, insufficient data, Dermal)
LD50 経皮	20 mg/kg
LC50 吸入 - ラット	0.05 – 0.52 mg/l (EPA OPPTS 870.1300: Acute Inhalation Toxicity, 4 h, Rat, Male / female, Experimental value, Inhalation (dust), 14 day(s))
LC50 吸入 - ラット (粉じん / ミスト)	0.054 – 0.52 mg/l/4h

皮膚腐食性／刺激性 : 分類できない

m-Enterococcus Agar	
pH	7 – 7.4
Sodium azide (26628-22-8)	
皮膚腐食性／刺激性	ウサギの皮膚に適用した試験の結果、適用 4 時間後に腐食性を示し、6 匹中 3 匹が死亡したとの報告 (DFGOT vol.20 (2003)) に基づき区分 1 とした。

安全データシート

m-Enterococcus Agar

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 : 分類できない

m-Enterococcus Agar

pH	7 - 7.4
----	---------

Sodium azide (26628-22-8)

眼に対する重篤な損傷性／刺激性	皮膚腐食性が区分 1 なので、眼も「区分 1」とした。
-----------------	-----------------------------

呼吸器感作性 : 分類できない

Sodium azide (26628-22-8)

呼吸器感作性	データなし。
--------	--------

皮膚感作性 : 分類できない

Sodium azide (26628-22-8)

皮膚感作性	データなし。
-------	--------

生殖細胞変異原性 : 分類できない

Sodium azide (26628-22-8)

生殖細胞変異原性	in vivo 試験のデータがなく分類できない。なお、in vitro 変異原性試験では、微生物復帰変異試験で陽性の結果 (ACGIH (2001))、ヒトリンパ球またはチャイニーズハムスター卵巣細胞を用いた染色体異常試験、マウスリンパ腫細胞を用いた遺伝子突然変異試験ではいずれも陰性結果 (DFGOT vol.20, (2003)) であった。強い変異原性は微生物に特有のものとみなされている (DFGOT vol.20 (2003))。
----------	--

発がん性 : 分類できない

Sodium azide (26628-22-8)

発がん性	ACGIH により A4 に分類されている (ACGIH-TLV (2005)) ので「区分外」とした。なお、ラットを用いた 2 年間経口投与による試験で、用量依存的な体重増加抑制と高用量群における生存率の低下が見られたが、発がん性の証拠は見出されていない (NTP TR389 (1991))。
------	--

生殖毒性 : 分類できない

Sodium azide (26628-22-8)

生殖毒性	ハムスターの皮下に埋め込まれた浸透ミニポンプから妊娠 7~9 日目にばく露した結果、2/15 匹が死亡、早期吸収の有意な増加、脳ヘルニアの発生が認められている (DFGOT vol.20 (2003)) が、併せて、証拠文書として不十分なため出生前の毒性評価には使用できないと述べられている (DFGOT vol.20 (2003))。かつ、投与方法も特殊であることから「分類できない」とした。
------	---

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 分類できない

安全データシート

m-Enterococcus Agar

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

Sodium azide (26628-22-8)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	経口摂取による中毒事故で心臓の強い鼓動、気絶、心臓虚血を呈した 5 人の実験技術者の例 (NTP TR.389 (1991))、10~20g を摂取後、精神状態の変化、顕著なアシドーシス、心律動異常、心拍数低下、低血圧を招き死亡した化学者の例 (NTP TR.389 (1991))、極めて少量摂取した場合でも頻脈、過換気、低血圧を示した実験技術者の例 (HSDB (2009)) などの症例報告がある一方、本物質の標的器官は心臓血管系であり、末梢血管の拡張を起し血圧低下を招くと記述されている (DFGOT vol.20 (2003)) ことから、区分 1 (心臓血管系) とした。また、上述のヒトの事例ではさらに症状として、めまい、気絶、精神状態の変化、非心臓性の肺水腫、代謝性アシドーシスが見られ、また、本物質を数グラム摂取した自殺例 (ACGIH (2001)) の所見として、肺水腫と脳水腫の記載があることから区分 1 (肺、中枢神経系、全身毒性) とした。なお、動物試験では経口投与により、ラットで心拍数低下と全身痙攣 (DFGOT vol.20 (2003))、ウサギで血圧低下と心臓障害 (PATTY (5th.2001)) が記録されている。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 分類できない

Sodium azide (26628-22-8)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットの 13 週間反復経口ばく露試験の最高用量 (20mg/kg/day) で臨床症状として嗜眠、努力呼吸、死亡、組織学的病変として大脳と視床に壊死が観察された (NTPTR389(1991))。さらに、2 年間反復経口ばく露試験では最高用量 (10mg/kg/day) で生存率の低下が見られ、この低下は試験物質ばく露に起因する脳の壊死と心血管虚脱が原因である述べられている (NTPTR389(1991)) ことから、区分 1 (中枢神経系、心血管系) とした。また、上記のラット 13 週間経口ばく露試験の 20mg/kg/day では、肺のうっ血、出血と水腫も観察されているので区分 2 (肺) とした。なお、イヌの反復経口ばく露試験 (1~10mg/kg/day) でも運動失調が見られ、大脳の組織形態学的変化が報告されている (HSDB(2009)) が、ヒトのばく露に関しては重大な有害影響の発生を伝える報告は特に見当たらない。
NOAEL (経口、ラット、28 日)	10 mg/kg bw/day

誤えん有害性 : 分類できない

Sodium azide (26628-22-8)	
誤えん有害性	データなし。
動粘性率	Not applicable (solid)

12. 環境影響情報

生態毒性

- 生態系 - 全般 : 水生生物に有害、長期継続的影響によって水生生物に有害。
水生環境有害性 短期 (急性) : 水生生物に有害
水生環境有害性 長期 (慢性) : 長期継続的影響によって水生生物に有害

Sodium azide (26628-22-8)	
水生環境有害性 短期 (急性)	藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) での 96 時間 ErC50=348µg/L (AQUIRE, 2010) であることから、区分 1 とした。

安全データシート

m-Enterococcus Agar

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

Sodium azide (26628-22-8)	
水生環境有害性 長期 (慢性)	急性毒性区分 1 であり、急速分解性がない (直接測定 (HPLC) による分解度 : 1% (既存点検, 2000)) ことから、区分 1 とした。
LC50 - 魚 [1]	2.75 – 3.28 mg/l (Equivalent or similar to OECD 203, 96 h, Oncorhynchus mykiss, Flow-through system, Fresh water, Experimental value)
EC50 - 甲殻類 [1]	4.2 mg/l
EC50 - 他の水生生物 [1]	5 mg/l Test organisms (species): Gammarus fasciatus
EC50 96h - 藻類 [1]	0.35 mg/l (Equivalent or similar to OECD 201, Pseudokirchneriella subcapitata, Static system, Fresh water, Experimental value, Cell numbers)
ErC50 藻類	0.348 mg/l
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.16 Source: NIOSH
有機炭素吸着係数 (Log Koc)	2.63 (log Koc, Calculated value)

残留性・分解性

m-Enterococcus Agar	
残留性・分解性	急速分解性でない
Sodium azide (26628-22-8)	
残留性・分解性	Biodegradability: not applicable。
化学的酸素要求量(COD)	Not applicable (inorganic)
ThOD	Not applicable (inorganic)

生体蓄積性

m-Enterococcus Agar	
生体蓄積性	データなし
Sodium azide (26628-22-8)	
生体蓄積性	Not bioaccumulative。
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.16 Source: NIOSH
有機炭素吸着係数 (Log Koc)	2.63 (log Koc, Calculated value)

土壌中の移動性

m-Enterococcus Agar	
土壌中の移動性	データなし
Sodium azide (26628-22-8)	
表面張力	No data available (test not performed)
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.16 Source: NIOSH
有機炭素吸着係数 (Log Koc)	2.63 (log Koc, Calculated value)
生態系 - 土壌	Low potential for adsorption in soil。

安全データシート

m-Enterococcus Agar

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない

13. 廃棄上の注意

推奨製品/梱包処分

: 固体廃棄物については適用法令を遵守する。
管轄当局の規制に準拠して廃棄する。

廃棄方法

: 許可を得た収集業者の分別回収に準拠して内容物/容器を廃棄する。

残余廃棄物

: 本製品の廃棄物は、製品自体と同様に有害であり、環境への影響も同様に考慮する必要がある。
廃棄物の管理および処理は、製品本体で定められた方法に従うこと。

地域の廃棄規則

: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。

推奨下水処理

: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。

追加情報

: 空の容器を再利用しない。

14. 輸送上の注意

国際規制

UN RTDG に準ずる

国連勧告 (UN RTDG)	
国連番号	
輸送規則の定義上危険物に該当しない。	
国連正式品名	規制されていない
輸送危険物分類	規制されていない
容器等級	規制されていない
環境有害性	規制されていない

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

非該当

国内規制

その他の情報 : 補足情報なし

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法 : 危険物・爆発性の物（施行令別表第1第1号）

安全データシート

m-Enterococcus Agar

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

毒物及び劇物取締法	: 毒物（指定令第1条） アジ化ナトリウム及びこれを含有する製剤
消防法	: 第5類自己反応性物質、金属のアジ化物（法第2条第7項危険物別表第1・第5類10・危険物政令第1条第3項）
海洋汚染防止法	: 有害でない物質（施行令別表第1の2）
道路法	: 車両の通行の制限（施行令第19条の13、（独）日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2）
水道法	: 有害物質（法第4条第2項）、水質基準（平15省令101号）
労働基準法	: 疾病化学物質（法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1）

16. その他の情報

免責条項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしているが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではない。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある。製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負わない。当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがある。